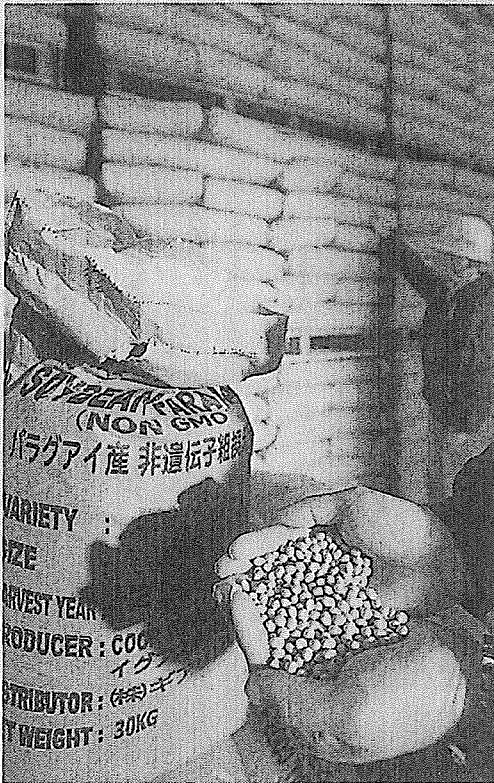


# 豆腐で被災地元気に



被災地に贈る豆腐づくりに使われるパラグアイ産の大豆＝5日午前、名古屋市港区の中央倉庫、福留庸友撮影

東日本大震災の被災者に100万丁の豆腐を贈る活動が、南米パラグアイの日系人と岐阜県の食糧輸入会社の連携で始まった。原料の大豆は、同国の主要輸出品。「心はひとつ」という母国への思いをパッケージに刷り、避難所などでみそ汁や湯豆腐にして食べてもらいたいという。

## パラグアイ日系人と岐阜の会社タッグ

名古屋港区船見町の中ス(中田智洋社長)が、同央倉庫には、30センチ紙袋に詰められた大豆が高く積み重ねられている。岐阜県美濃加茂市に設けた大豆1トンで1万丁の食糧輸入会社キアリンクス(株)が、同国は南米中央部にあり、パラグアイ日本大使館によると、約3800人の日本人移住者と約3200人の日系2世、3世がい

# 寄贈の大豆100トで100万丁

**心はひとつ**  
Corazones Hermanados

パラグアイ国民は日本を応援します。

**被災地支援 長期間保存豆腐**

南米パラグアイ国は東日本大震災に際し、同国日本人移住者が生産する大豆で作った豆腐を同国友好支援活動として提供いたします。被災地の皆様の一歩でも早い復興は全パラグアイ国民の願いです。

11.04.20

TEL: 0576-224250 (FAX: 0576-224251)

〒4960266 岐阜県岐阜市南大井1-1-1

キアリンクス(株) 代表取締役社長 中田智洋

TEL: 0576-224250 (FAX: 0576-224251)

〒4960266 岐阜県岐阜市南大井1-1-1



ギアリンクスは2000年、将来の食糧不足に備えるために岐阜県が後押しして設立。8年前からパラグアイの大豆を輸入している。震災が起きた8月11日、中田社長は南米にい

た。パラグアイの日系人もテレビで震災被害を見ており、「何ができる?」と申し出てくれたという。パラグアイの1人当たり国内総生産(GDP)は日本の約15分の1。それでも日系農家が大豆を100トン贈ることになった。さらに、100万丁の豆腐を製造するには4千万円かかる。1千万円分が日系の枠を超え同国民から寄せられた。残り3千万円分はギアリンクスが日本国内で募っている。

東京農大名誉教授で食文化研究者の小泉武夫さん(67)も「大豆食品はたんぱく質が豊富で、被災者が食べれば元気になる」と賛同し、盛岡市の豆腐メーカーを紹介した。このほか、パラグアイからの支援の豆腐のパッケージデザインにギアリンクス提供

4月13日から豆腐の製造を始め、100万丁に達するまで続ける。受取先の自治体も募る。イグアス日本人会長で、大豆農家の福井一朗さん(46)は岩手県出身で、3歳の時に移住した。「暮らす場所は地球の反対側ですが、同じ日本人として、一粒一粒の大豆に復興の祈りを込めました」とメッセージを寄せた。

中田社長は「日系人の望郷と被災者支援の思いが、国全体に広がり、深く感動している。同国の大豆のおいしさもぜひ知ってほしい」と話す。問い合わせはギアリンクス(05773・66・51111、サラダコスモ内)へ。(山吉健太郎)